



南葵音楽文庫ミニレクチャー

南葵音楽文庫で学ぶ西洋音楽史 (2) 「ドレミ」の起源

佐々木 勉

2019年5月10日

和歌山県立図書館南葵音楽文庫閲覧室

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500
<https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/nanki/>



グイド・ダレッツォ

Guido d'Arezzo (992 頃～1050 年頃)

出生については不明。フェラーラ近郊ポンポーザのベネディクト会修道院に所属した修道士で、少年たちに聖歌歌唱の指導を行う。1023年にアレツォに移り、司教テオダルドゥス（在位 1023～36年）の下で歌唱指導者、音楽理論家として活躍。

ウィーン、国立図書館写本 51、fol.35

右：司教テオダルドゥス、左：グイド・ダレッツォ

グイドの著作

《もう一つの規則 Alia regulae (アンティフォナリウム序文 Prologus in antiphonarium)》1020～25年頃

《ミクロログス Micrologus》1026年頃あるいは1032年以降

《韻文による規則 Regulae rhythmicae》1025～27年頃

《ミカエルへの書簡 Epistla ad Michaelem

(知らない聖歌を歌うことについての書簡 Epistla de ingito cantu)》1028～29年頃

《ミカエルへの書簡 (知らない聖歌を歌うことについての書簡)》抜粋

親愛なる兄弟よ、知らない聖歌を歌えるようにしようとする時、しばしば行われる一般的な方法は、次のようなものです。示された旋律の [それぞれの音を表す音名の] 文字をモノコルドで鳴らし、それを聴いて、まるで教師から教わるようにその音 [の高さ] を覚えます。しかし、この方法は初学者にとっては好都合でも、子供じみていて、学習が進んだ者にとっては最悪です。実際、イタリア人だけでなく、ガリア人やゲルマン人、そしてギリシア人の教師から学び、この技芸を極めようとする才知に富んだ多くの識者たちが、この方法ばかりに頼っていたので音楽家にも歌手にもなれず、結局、私たちの少年聖歌隊員を真似ることすらできずにいます。知らない聖歌を歌うために、私たちは、人の声や何らかの楽器の音を手がかりにするべきではありません。そんなことでは、私たちは、盲人たちのように導き手なしにはどこへも行けません。私たちは、個々の音のあらゆる上がり下がりや特性をしっかりと記憶すべきです。もし誰か、書物によるのではなく、私たちの実践に従って手ほどきする方法を知っている者がいれば、あなたは、聴いたことがない聖歌をとて簡単に歌う、素晴らしい方法を習得したも同然でしょう。実際、私が、この方法を子供たちに教えるようになってから3日もしないうちに、彼らの何人かは、知らない聖歌を簡単に歌えるようになりました。しかし、他の方法では、何週間経っても、このようなことにはなりません。

このような次第ですから、知っている聖歌であれ、知らない聖歌であれ、迷わずに歌うために、もし音や旋律をすぐに自信をもって思い浮かべることができるようにしようというのなら、あなたは、特に親しんでいる旋律の冒頭の音に注目しなければいけません。どの音であれ、[高さを] 記憶しておくために、あなたは、その音から始まる旋律を覚えておくのです。例えば、このような旋律です。私は、子供たちに教える時、いつもこの旋律を歌っています。

U
T que- ant laxis re-soná-re fi-bris Mi- ra gestó-
rum fámu-li tu- ó- rum, Sol-ve pollú- ti lá-bi- i re- á-
tum, Sancte Jo- án-nes.

Ut queant Laxis, Resonare fibris, Mila gestorum,
Famili tuorum, Solve polluti, Labii reatum,
Sancte Johannes.

【僕たちの】舌をゆるめてひびかせられるように、
その驚くべき御業を、あなたの僕たちが、
汚れた唇を、罪から解き放って下さい。
聖ヨハネよ。

(楽譜出典：Antiphonale monasticum, 922)